

名 称	平成 30 年度 第 2 回ほどがや市民活動センター評議会 議事録	
日 時	平成 31 年 3 月 27 日(金) 10:00~12:00	
場 所	ほどがや市民活動センター(アワーズ) ミーティングスペース	
出席者	評議会委員	浅井 経子 委員 (八州学園大学 生涯学習部 教授) 有元 典史 委員 (横浜国立大学 教育学部 教授) 小倉 敬子 委員 ((公財)かわさき市民活動センター 理事長) 近藤 博昭 委員 (横浜商工会議所西部支部 支部委員) 竹迫 和代 委員 (参画はぐくみ工房代表兼ファシリテーター) 畑尻 明 委員 (保土ヶ谷区連合町内会長連絡会 会長)
	保土ヶ谷区役所	地域振興課 地域振興課長 大山 敏彦 " 生涯学習支援係長 鈴木 明彦 " 生涯学習支援係 深谷 修人 " 生涯学習支援係 西村 佳那子
	管理運営業務 受託者 特定非営利活動法人 横浜市民アクト	理事 小林 康夫 監事 佐藤 洋志 ほどがや市民活動センター センター長 吉弘 初枝 " 伊勢 俊枝 " 職員 穂積 邦明 " 職員 北川 有紀 " 職員 高畑 昇

議題	1 平成 30 年度 ほどがや市民活動センター運営及び業務報告 2 平成 31 年度に向けて 3 評価シート記入 4 その他 意見交換
資料	1 平成 30 年度ほどがや市民活動センター 第 2 回評議会委員・関係者名簿 2 平成 30 年度ほどがや市民活動センター 事業計画書・報告書 3 平成 31 年度ほどがや市民活動センター 事業計画案 4 ほどがや市民活動センター評議会会則 5 ほどがや市民活動センター協働運営会議会則・組織図

* 大山地域振興課長の挨拶に続き、評議会会則第 8 条に基づき、委員 6 名全員出席のため、本評議会の成立が確認された。

* 平成 30 年度第 2 回評議会議事録を、ほどがや市民活動センターホームページに掲載する旨を出席委員全員の了承を得た。

* 平成 30 年度第 1 回評議会時選出に基づき、議長は小倉委員、副議長は浅井委員が務める。

議題1：平成30年度 ほどがや市民活動センターの運営及び業務について

吉弘センター長及びアワーズ職員、地域振興課職員より、平成30年度事業の報告を行った。

【委員からの質問および意見と回答】

地域の活動団体・施設・機関等訪問について

(質問) ヒアリング票のフォーマットが素晴らしい。内容は職員で分析等しているのか？

(回答) 現状そこまでできていないが、定例会等で職員間の情報交換をしている。

(意見) その後の分析や次の動きにつながる議論ができるようになるといい。

利用者交流会(協働運営会議との連携事業)について

(質問) 参加者人数が少ないのが気になる。積極的に募った方がいいのでは？

(回答) 少数でも活発な議論ができる場にはなっているが、会議メンバーの中でも交流会の目的など見直そうとする動きが見られている。

(意見) 案内を送るだけでは参加しない団体は来ない。参加を促すような仕掛けが必要。

(質問) 第2回が水曜日に開催されているが、平日の設定は可能なのか？

(回答) 現状は企画メンバーの都合で日程を決めている。アンケートも当日参加者にしかとっていないため、アワーズ職員からは参加しなかった団体の声を届けるようにしている。

(意見) 来ない人の意見をどう拾うかという視点が重要になる。

はぐくみプロジェクトについて

(質問) 区民企画型講座には、昨年の参加者も再び参加することができるのか？
講座の他、フォローアップはアワーズでもしているのか？

(回答) 参加の制限は設けていない。補助金の交付が3回までであり、参加者が育つものにもおよそ3年を目安に捉えている。区役所職員がいない際など、アワーズ職員が適宜コミュニケーションとる等してフォローアップしている。

(質問) この事業から過去卒業して自立した活動団体はあるか？

(回答) 実感として4団体程。団体がそのまま自立するよりも、個人が地域の活動者として自立していくケースが多い。

(意見) 見ず知らずの参加者どうして企画を始めるので、仲間づくりの面でサポートが必要だと感じるところがあり、アワーズとも連携しながら支えられる仕組みができるといい。

(意見) 色んな人が集まり支え合ってつくるという学習の一番いい体験になっている。

他の地域にはない、いい先進事例で成功しているのもっと価値を発信していい。

(意見) アワーズの役割は地域活動の立上げ支援。話しやすいところがいいところ。他の施設とも連携しながら事業を発展させられるといい。

(意見) 参加者が今後も地域を背負っていく人材として育っていくといい。

地域デビュー講座について

(質問) 参加者が予定の倍以上集まっていたが、追加の講座はするのか。

(回答) 次年度の5月に予定している。

(質問) 高齢男性に理数系の視点を入れるということは、いい知見。一般化できるのか。

(回答) 利用者との日常的な会話を参考に、皆さんが身近に実感できる地形の背景を深掘りできるような構成とした。男性の方が自然の中で遊んだ経験や、例え理数系が専門でなかったとしても、子ども心を引き戻せるような内容に惹かれているんだと思う。

地域と学校の連携(保土ヶ谷区学校・地域コーディネーター連絡会)について

(質問) コーディネーター養成は区役所が主体でやっているのか？連携しているのか？

(回答) 教育委員会が主体に行っている。各区に学校連携担当の職員(保土ヶ谷区は元学校長)がおり、アワーズも連携して情報交換等しながら事業を進めている。

(意見) コーディネーターにアワーズの事業に来てもらえるといい。

ホームページ・活動団体紹介冊子について

(質問) 団体プロフィールはどこに設置しているのか？

(回答) 区内の公共施設、各区のセンター、アワーズ窓口で配布している。約600部発行。

(質問) 団体プロフィールに掲載している情報は、ホームページから閲覧できるのか？

(回答) 現在団体の活動内容の検索をすることはできるが、冊子と同じように閲覧するところまではホームページの整備が進んでいない。

(質問) ホームページのリニューアルには高いコストと計画性が求められるが、区役所としては今度の予定等あるか。

(回答) 区役所内でも今後のアクセシビリティ対応については検討している。アワーズで、今後地域のプロボノチームを交えて、リニューアルに向けた会議をしていく。

(意見) 地域の団体や企業等と一緒につくっていることも掲載できるといい。

(質問) スマホ対応はしているのか。SNSの活用はしないのか。

(意見) スマホでも見ることはできるが、スマホ表示用のUI対応まではできていない。ほどがやサンタではFacebookページを作成した。

コーディネーター件数について

(質問) まちの学習応援隊のコーディネーター件数が増えたのは要因があるのか。

(回答) 1回依頼した内容がよかった場合に、次の依頼につながってきている。その他、応援隊のPR活動等を見ているが、活動者の質や対応力が高いと感じている。

(質問) 依頼主と応援隊が直接連絡を取り合っている場合はカウントに入るのか？

(回答) カウントはしていない。実態として、既にアワーズを通さずに活動されている事例は増えている。

みんなの広場について

(質問) 「みんなのひろば」とは誰が作っていく広場なのか、今は色々な人が学習してつながっていく場がいいが、今後のプロセスデザインが見えづらい。

(回答) 今は学習の場になっているが、その後の実践につなげる計画の検討をしている。

吉弘センター長より、平成 31 年度事業の説明を行った。

議題 2 : 平成 31 年度に向けて

議題 3 : 評価シート記入

議題 4 : その他 意見交換

(各委員よりコメント)

- ・改めて「アワーズ」はいい名前。これからもみんなで作ることを期待しています。
- ・横浜市の区版センターの先進事例として頑張してほしい。
- ・これだけの活動をしていて改めてすごい。むしろもう少しいい建物にしてほしい。
- ・毎回評議会で出た意見を少しずつ反映されていい活動になっている。これからも区役所とも連携して頑張してほしい。